



やはり相模原の地域力といえば
「自治会力」といっても
良いのではないのでしょうか。

相模原市自治会連合会会長 細谷 昇

対談

相模原市の「地域力」

- 地域を支える市民の力 - について語る

自治会活動のような大事な活動は、
地域の多くの人々の参加のもとで
守っていかなければなりません。
これが地域力だと思いますし、
「地域力＝相模原力」につながると
考えています。

相模原市長 加山 俊夫



お二人の考える

「地域力」について

お聞かせください。

市長 地域力とは、地域にお住まい

の方たちが自分たちで安全・安心な環境を作り上げていくことだと思えます。地域の人たちが手を携えて課題を解決する、この連携力、連帯力が「地域力」と言えるのではないのでしょうか。

現在は、多様化、高度化した市民のニーズに行政だけでは対応できない時代でもあり、こうした地域の結束力が高いということは素晴らしいことで、そのことが住民生活にも反映されるのではないかと考えています。

細谷 私は現在、市の連合会長になっていますが、昨年度までは地元の自治会長を十四年ほど経験させていただきました。その経験から言いますと、やはり相模原の地域力といえ「自治会力」といっても良いのではないのでしょうか。自治会は地域を「面」として捉えている唯一の団体です。他の団体は、「点」として活動することが多いと感じています。

自治会の活動は、各地域で多少温度差があるとは思いますが、「地域力」という意味では、自治会の力が大事だと考えています

「地域力」を担う

自治会の課題を

どう捉えていますか？

細谷 自治会が抱えている課題といえば、未加入者対策、役員の高齢化、担い手不足、参加者の減少などありますが、これらの課題は、長年にわたって関係者が感じていた課題で、古くて新しいものですし、なかなか表に出にくいものでした。

この課題に市自治会連合会として対応するため、昨年から2カ年にわたって「地域を元気にする検討会議」を立ち上げて議論をしてきました。検討結果は、提言書としてまとめ、市長をはじめ、公民館、社会福祉協議会の関係者に提言させていただきました。このような提言としてまとめたとにより、取り組みを進めやすくなったと感じており、非常に良かったと思っています。

市長

自治会の課題解決に尽力してきた方々は、地域に多くいらっし

やると思いますが、このような会議でしっかり検討し、地域全体で共通認識を持ったこと、自治会が自らやることもしっかりやっていこうということを決めたということ、また、それを行政も同様の課題として認識したということは、行政と地域が一体となったパートナーシップの醸成につながったと考えています。

これは大変重要なことであると思いますし、行政と市民が一体となったパートナーシップにおけるシンボリックな活動の一つになったと思っています。

自治会の活動は、昔に比べると変わってしまっただけでしょうか？

市長 私の経験でお話すれば、昔の自治会は、自分たちの家の前の清掃、

道普請、環境のための活動などを、みんな当たり前に行っていました。最近では、行政への依存度合いが高まってきており、自治会の共同活動が希薄になってきていると思います。

しかし、市全体で見れば、防災、交通安全、防犯、環境美化、教育、一人暮らしお年寄りへの支援や医療も含めて、様々な分野で地域が支えなくてはいけない、自主的な対応や備えをしなくてはいけない、力を持たなくてはいけないという意識を自治会の皆さんが持っていると思っています。

確かに、見掛けは昔の自治会活動よりも参加者が少ない中で、地域の協力関係が薄れているという見方もできるかもしれませんが、組織力の点から見ても、先ほどの提言書をまとめたという例を出せば、地域の課題や問題を的確に捉えていた



取り組んでいこうという意識を持っている人が多いと考えています。ただ、加入していない人たちに對しても、地域内の課題に對して、どうやって共通認識を持つてもらおうかということについては、自治会としても、周知することが大事だと思えますし、こうした周知を通じて、地域のいろんな活動に参加していただくことに繋げるということがポイントだと思います。

昔も今も、自治会の役割というのは、安全、安心に住んで、暮らして、働ける地域社会を作ること、逆にそういう住みよい地域を作るには、自治会がなければできないと思っています。

しかし、最近の住民の方の中には、多様化、高度化したニーズがあり、生活様式も様々になってきています。こうした中で、時代に即した自治会活動というのを考えるには、連携の必要性、自治会の必要性を細谷会長もご指摘されていますが、「地域力は自治会だ」ということをもつと伝えていっていただければと考えています。

自治会の活動や魅力を伝えることが非常に大切なことですね。

細谷 市の十一月十五日号の広報紙で自治会活動についてPRしていただきましたが、私が当たり前と思っていることでも、知らない人が多くと改めて思いました。自分の地域のふるさと祭りの実行委員会の決算報告の時に、ある自治会長がこの広報紙を持ってきて、ここに載っている活動は初めて知ったので、自分の自治会の活動にも取り入れてやりたい、ということも言ってきたことがあったのです。

自治会の役員といえども、知らないことがあるので、情報をいろいろな媒体で伝えるということは非常に大事だということを改めて感じました。

市長 この情報周知ということを考える上では、今の生活様式を念頭に置く必要があると思います。例えば、昔であれば、お父さんは働きに出て、お母さんやおじいちゃん、おばあちゃんは家に居て、情報を取得して、伝達する、あるいは地域活



司会 矢島市民活力推進部長

自治会の活性化に向けて取り組んでいることはどのようなことですか？

細谷 基本的には、自治会の加入率、参加率向上などの対策は、自治会長のやる気にかかっていると考えていますし、これに尽きるのではないのでしょうか。自治会にも一定の規模がないと、マンパワーとしての自治会長の人選も難しくなってきました。

また、夫婦共稼ぎ世帯ばかりがいるような地域のように生活スタイルが同じ人ばかりだと、自治会長の担い手を捜すのも難しくなります。すると、1年ぐらいで持ち回り、引継ぎも、紙1枚で引継いでしまうような状態があります。

このような状況に對しては、提言書に書いてあるとおり、相模原市自治会連合会としては、自治会長研修を開催するなどの手立てをして、組織として取り上げていくことが、現実的な解決になると考えています。

動に参加してもらおうといった、いろんな情報伝達手段やコミュニケーション手段がありました。しかし、今は、夫婦共稼ぎで、家にも一度や二度尋ねていっても留守なことがあったりすると思います。今後は、このような方々に對して、情報が必要だと伝わらない場合の対策が必要だと思えます。

役員の方も自分の生活もあるので、各地域に住んでいる住民個々の生活実態に合わせたきめ細やかな情報伝達の手段を考えると、なかなか難しいと思いますが、行政としても、今回の事例集や広報紙のよくなPRでの支援などに取り組むことが必要だと考えています。

地域と行政は、今後 どのような関係を築いて いくべきでしょうか？

細谷 今は行政からの依頼業務が多いので、自治会長の負担になっていく面はあると思います。例えば、地域に配布する行政からの配布物についても、今の地域情報紙に集約されるまでは、非常に多いと感じていました。

これも、行政との話し合いの中で、地域情報紙ができて一定の整理がされて、やりやすくなったと思います。今後、このような行政からの依頼業務について、自治会長や自治会が引き受ける上では、下請け的に行わずに、課題や問題があればすぐに行政に伝えて、しっかり話しあうことが必要だと思います。これも行政と自治会の情報共有の一つであると思います。課題や問題の共通認識もなく、ある日突然、降って来たような話を見ると、自治会の方でも、意思疎通がうまくできないところも出てきてしまうと思います。

逆に自治会の側でも、行政に何でも頼むのではなく自分たちでできることは、自分たちで行わないといけ

ない時代にあることを自覚してもらいたいと思います。

市長 行政の方でも、例えば、新任の自治会長研修が開催されれば、その中で、自治会にお願いするところがこの位あるということは、事前に知ってもらうことが必要だと思います。また、行政の姿勢としても、すべてを自治会にお願いし、依存するのではないということ、我々の反省として考えていかなければならないと思います。ある事務について、仮に一括依頼が出来るのであれば、庁内調整をして、説明会を行って理解いただくなどの措置をしていかなくは、ならないと思います。今後は、行政から業務を依頼する場合の自治会への対応の仕方を工夫していければと思います。



お互いの意思疎通を うまく図るためには どうしたら 良いでしょうか？



市長 自治会と話し合う場面としては、現在、地域市政懇談会を開催させていただいています。市長という職務上、対応しなければならぬ案件が多くあるため、なかなかこの懇談会には出席できませんが、私自身は、直接、地域の住民の方と話しをしていきたいと考えています。最近、地域からは「市長が地域に出てこない」という声を聞いています。これは、年に1回ぐらいは市長と直接話しをしたいという思いであり、さらには、地域の問題を市長に直接知ってほしいということであると考

えています。

私自身は、相模原の市長であり、市が大きく変わるときに、都市が向かうべき方向性についての強い意思を持たないと流されてしまうと思っています。本来であればこの私の思いを、地域において一番重要な団体である自治会の会長や皆さんに知っていただきたいと思っています。地域市政懇談会も当初はそういうことで、始まったのかもしれないのですが、いつの間にか行政側の御用聞きが中心の会議になってしまったと思います。道路を直してほしい、交番を作つてほしい、小学校のまわりの交通安全上の歩道を確保していただきたいといった話に終始してしまうことになっていきます。しかし、このような議題も大切な議題であると思っておりますので、実務的、日常的な話として、担当副市長、局長が対応すれば良いと考えています。市政の責任者である私としては、政令指定都市になり、区制を施行する中で地域はどうあるべきか、市政はどうあるべきかを直接伝えていきたいと思っています。

例えば私が、津久井地域に行っているいろいろな話をさせていただいた機会がありました。自治会長さんの集まりで話をしても、「そういうことを知らなかった。市長から初めてこういう話を聞いた。」といった声や「こういう話を聞きたかった」という声を多く聞きます。

そういう声を多く聞くにつけ、情報というのは数多く出されていて、市の広報紙などでも伝えてはいるが、なかなか伝わらないのだと感じているところです。ですから、こういう直接、地域住民と市政について話す場の必要性を感じています。例えば、市自治会連合会の会合の中で、そのような場を作っていただければ、年に1回ぐらいいは地区連会長の皆さんに直接話をさせていただきたいです。その場合は、時間はタイドに作らないで、私が話したことに對してフリーに自治会長さんがどんな風に考えていられるのかを話せたら良いと思います。

また政令指定都市移行後は、地区自治会連合会の区域単位に、地域政策担当という地域密着型の行政を担う重要なポジションの職員を配置するので、その地域政策担当が地区自治

会連合会の会合で、私の考えや市政の方向性などを話すといったこともできると思っています。私は、地域力を高めるという意味では、相模原市のあり方進むべき方向について、地域の自治会の皆さんとも共通な情報を持つことが必要だと考えています。し、今後は、媒体として広報やインターネットでも情報提供しますが、直接顔と顔を合わせて、私が市政の方向や課題について話し、逆に地域としては、その考えについてこのように思うといった情報交換のできる「市政のあり方について対話できる場」を作っていきたいと考えています。

細谷 地域と行政の関係は、先ほど話した「地域を元気にする検討会議」でも議論してきましたが、提言項目の一つでも具体化していこうというところで、市自治会連合会の中に、小委員会を立ち上げて、取り組んでいく予定にしています。この中で、今、市長がおっしゃった地域実情や市政について話し合う場のことについても、是非検討してみたいと思います。

地域と行政の役割分担についての考えをお聞かせください。

細谷 私が十四年ほど自治会長をやらせていた中では、自分達の自治会の中でできることは、自分達の手でやってきたと思つていました。地域で何かの問題があつても、行政の担当課にすぐ電話するということはしませんでした。例えば、カーブミラーの角度が悪いから担当課に電話して直してもらおうとありますが、自治会の防犯部長が言うのは、「担当課に電話したから」ということだけで済ませようとする場合があります。防犯灯にしても、球が切れたすぐに電話をしようとする人もいます。防犯灯の球は、自分達で交換できるものですし、カーブミラーだって工具がちよつとあれば、もの5分とかからないと思います。

いろいろな仕組みを知らないから、行政に頼んでしまうということもあるかもしれませんが、まだまだ行政に頼る、何でもやってもらえろという思い込みが強いのではないかと思います。市民も自治会もそういう考えが強くありま

すが、私は、もう少し自分たちでできることは自分たちで行う時代であるということ、理解してほしいと考えています。

市長 以前は、自分たちでできることは自分たちで行うことが当たり前だったのだと思います。昔の我々の地域でも自治会は、何でもできるものは自分たちでやろうということ、どぶさらいから、道普請から、草むしり、轍の直しなどはみんな自分たちでやってきました。

しかし、市民の生活様式が多様化してきている中では、土曜日も日曜日も勤務にあたっている人もいます。そういう状況を踏まえること、昔の自治会と同じように、やれることはやってくださいといつてもなかなか難しいと思います。

ただ、今細谷会長が言われたようにちよつとした身近なことは自治会がやるという「意識」を持つてもらえれば、行政としても非常に助かる面もあります。誰よりも地域にお住まいの皆さんが助かることになると思います。行政に、逐一お願いして、少し時間や手間をかけてやるのではなく、地域の方ができる体制を

整備していくことも必要だと思えます。そのかわりにそのような作業を行える権限については、自治会に任せてもらいたいといったことになり、ますと、まさにこれは、市で進めている都市内分権につながると思えます。

都市内分権は、行政でいえば、地方分権に例えられると思いますが、今後の地域のまちづくりを行っていく上での権限はむしろ自治会にお任せして事業を進めていく方が良く考えています。

そのような分権が進めば、「地域力」を持った自治会は、様々な問題解決を自主的にやれる体制ができ、逆に活動を全くしない「地域力」のないところは、安全安心という面からも、助け合いが必要な医療や介護といった面からも住みにくい地域、連携のない地域になっていってしまいます。今後は、自らのまちを自らつくるといふ主体性を発揮し、活動を進める上での連携する能力の高い地域がより住み良い地域になっていくと思えます。

細谷 例えば、地域に新しい人が引越して来たときには、地域の実情

を知らない人が多くなってきたいます。私の地域の連合会の中でも、昭和四十年代に自治会長だった人が、再任されたケースがあります。その頃に比べて、最近では、非常に忙しいので、いろんなことを自分たちでやらなければならないと思っているようです。当時のやり方で旗を振っても、なかなか住民が付いてきてくれないということもあるようです。

そのような事例から考えても、自分たちができることは、自分たちでやろうよといっても、まだまだ、行政依存度が強い人が多くいると思います。ここ最近で身に付いた行政依存の体質を変えることは、非常に時間がかかることになると感じています。

時代の変化の中で、自治会自体の必要性も変わってしまったのでしょうか？

細谷 これまで話をしてきたように、自治会の存在感が薄くなってきたことはあると思います。その要因は様々あると思いますが、私自身はこれから自治会がますます必要に

なってくると思っています。昭和三十年代、四十年代の時代のように戻っていくのではないのでしょうか。それも、今の時代に合わせた形で戻るのではないかと思えます。最近の社会情勢の変化の中だからこそ、必ず自治会が必要とされるあるいは担わなければならない部分が出てくると思っています。

その場合のポイントとは、やはり「福祉」になると思えます。地域の支えあいは、民生委員さんやボランティアの方が担っている面も大きいと思います。やはり「点」でしかないのが、やはり「面」もあると思います。身近な隣近所に「元氣？」と声をかけることが必要な時代であり、そのようなことを地道に行っていくことが、今後の地域づくりを考えていく上でのポイントになると考えています。

市長 そのような福祉活動も「依存性」があると思えます。例えば、民生委員さんがいるから一人暮らしの人は民生委員さんに任せてしまっていることもあるのではないのでしょうか。または、病気の人がいても、その病気の人を看病する人がいるから

任せてしまうということもあると思えます。隣にいれば、地域の人が声をかけるぐらいに連携していかないと、役を担っている人がいるから、全てを任せてよいというものではないと思えます。

良い自治会、活動する自治会というのは、他の自治会が何をしているかが重要ではなく、自分たちの創意工夫の中で、自分たちの自治会活動はこうあるべきだというものを持っていると思えます。

例えば、災害時に弱者になつてしまふような人たちの名簿を作るといった話がありますが、名簿を作る以前に「私たちの地域は仲間であり、兄弟だ」という思いがあれば、隣に八十歳や九十歳の高齢の方がいるということは自然にわかっていくし、自治会でも気づいている状況になると思えます。そして、火事や災害があれば対応することや、普段は1日や2日声をかけなければ心配だといったことを普通に行っていると思えます。自治会の中でも、より充実した自治会活動を行っている自治会であれば、当然行っているような話ではないのでしょうか。

逆にそのような活動をしていかない
と、自治会自身の存在価値がなくな
っていったってしまうと思います。自治
会も差別化される部分が出てきても
良いのではないのでしょうか。今回の
作成する事例集のように、一生懸命
活動して、このような成果をあげて
いますといった情報はどんどん出し
ていき、自治会はこんな新しく、役
に立つ活動もしているんだというこ
とを知ってもらえれば、もっと地域
が良くなっていくと思います。その
ような活動の情報を知ってもらえれ
ば、刺激をうけて自分たちの自治会
でももっとがんばっていいこうとい
う気持ちになってくるのではないかと
思います。

**そのような気持ちを持つ
人が増えていただけると
「地域力」も高まりますね。**

市長 一番問題になってくるのは、
地域の問題を迅速に行政に反映させ
たいという思いと、行政が今考えて
いることを正しく地域に伝えたいと
いう思いをキャッチボールする場が
ないことだと思います。

また、自治会加入率が60%程度

しかないという話がありますが、
市全体で見れば、組織されていない地
域もあると思います。逆に、組織さ
れなければ、それでも構わないと考
える気持ちもあります。それは、極
端な言い方になってしましますが、
自治会の構成上、どうしてもイベン
トをする時などには、多くの自治会員
がいたほうがいいとは思いますが、
組織しない地域で災害が起きたとき
や、自分の子どもが熱を出してどう
したらいいかわからないようなとき
に、自治会のような組織が無い地域
で一番被害をうけて、困るのはその
本人だと思っています。

そのように考えてくると、自分が
自分の家族を大事に思うのと同じよ
うに考えていくことが必要ではない
でしょうか。



人間はいつの時代でも、一人では
生きていけないものです。道路があ
ったり、交通手段があったり、物を
売っているところがあったり、診療
機関あつたりと、社会に助けられて
きていることも理解してほしいと思
います。

やはり、人々が連携している地域
の方が住みやすいし、自分を大切に
できると思います。そのように考え
れば、自治会に入らなかつたり、組
織を作らなかつたりして、自分で自
分を追い詰める、住みにくい地域を
作っている人は、自分自身で困って
しまう状況を作っていると思いま
す。極端な言い方をすれば、そのよ
うな人がいても構わないと考えてい
るところです。

しかし、このようなあまり連携の
とれない人達のおかげで、課題や問

問が出てきていることもあると思
いますので、地域の人達には、がんば
ってもらって、加入促進に励んでい
ただきたいと思います。

人間が本当に知恵を持つ生き物で
あれば、支えあいや人を思う心がな
かつたらいけないということがわか
るのではないのでしょうか。

細谷 私自身のスタンスは、自治会
は地域のすべてのことに関わること
を基本としています。「地域力」を別
の意味でとらえると、子どもから大
人まで年代を問わず関わりを持つと
してきます。「遠くの親戚より近く
の他人」という気持ちでお手伝いを
していると、「助かった」と感謝され
ることも多いです。地域における幅
広い何でも屋になっていくからこ
そ、地域には自治会長といったリー
ダーが育ってくるのだと思います。

このリーダーの資質をあげること
が大事だし、そのことで、「地域力」
も高まっていくのではないでしょ
うか。とりあえず何でもいいから1年
で終わりだということでは、地域の
力はあがらなと思います。そうはい
っても地域の仕事は大変だという話
もよく相談されるのですが、私の持

論は、地域を良くするためには、一定年数かけなければできないというも思っています。

市長 自治会長といったリーダーの意識を高めるのは大事なことだと思いますが、非常に大変な作業だと思います。

やはり人間というのは、自分が活動していることを認めてもらったり評価してもらったり、見てもらったりすることがやる気につながるものなので、そういう仕組みを作ること必要だと思います。

また、大変なことに取り組むときは、自分もそうですが、人から言われたことだけを行う、または、仕事は、担当になったものだけを粛々とやっていけば良いということでは、つまらないものです。人から言われなくても、自分から発案し、その仕事を通した中で、こういう発想でこうやれば、多くの市民が喜び、相模原市が発展するのではないかと、「知恵」を出して、自らが進んで仕事に取り組むことが大事だと思います。

自治会活動も同じで、順番が回ってきたからしようがないから、仕方

がないからやっているということでは、発展性もないと思います。

例えば、自分の役といえば防災部長だから、防災の訓練を年に1回やって、連絡をすればそれで終わりという仕事では、やる気も続きません。そのような仕事のやり方ではなくて、防災部長ががんばってくれることで、地域の防災力、組織力高まりましたといった感謝があったり、自分たちの活動の様子を発表する場があったりすることで、自発的な自己の研鑽能力が高まり、自分のやっていることは社会貢献の高い仕事をしているんだなあと考えることが必要ではないでしょうか。子どもの勉強をやる気にさせる場合でも、ただ勉強やれといっても伸びないものです。この科目は不得意だけれども、理科は良くできるといえば、そういうことがきっかけで、勉強ができるようになると同時に、他の運動や活動のやる気にもつながったりすると思います。人間が気持ちよく社会参加をする環境を作ることが大事だと思います。

細谷 そういう自治会長といったリーダー育成もしっかり取り組んで

いかなければと思いますが、市の職員にも今後は地域のことを良く知ってもらえるように育てて欲しいと思います。いろいろな政策や制度を作るときに、机上ではいろんなことを考えて絵をかけると思います、それを実際に実行する地域には、机上では見えない「感情」があるのです。

そういう感情に配慮しない、気持ちが入っていないことを地域に説明しても、ちよつと違うのではないかという話がすぐ出てしまいます。もちろん、説明された内容は、理解はしますが、感情的にはちよつと納得がいけないということがあるので。職員の方には、先に机上のことありきではなく、現場の声を積み上げることは、難しいと思いますが、必要なことだと思っていたきたいと思います。特に各自治会で活動している役員には、そういう気持ちが強いと思いますので、実際に現場を見て、体験してもらおうことが必要だと考えています。

市長 今回の事例集の作成のときのように、活動を見ることも非常に大事だと思いますが、地域の運動会

やお祭り、懇親会に出て交流を深めることもできればもつと良いと思います。このような現場を体験する研修は、必要であると考えていますので、自治会と行政職員の交流、一体感の醸成については、市の各部署で取り組んでいくことが必要だと考えています。

**最後に政令指定都市を
目指す相模原市の「地域力」
の今後の展望を
お聞かせください**

細谷 これまで私が話してきたことは、何も目新しいものではないことだと思っています。しかし、こういったことが、あまり表に出てこなかったということは事実ですし、この大きな転換の時期に明確になったことは、時宜を得ているし、有る意味当然だと思っています。今後の自治会や地域力を考える上では、行政に「やらされている」という思いだけは、どこかの場面で払拭しなくてはならないと考えています。先ほど市長に提案いただいた自治会と行政が双方向で話あう機会を作って、逆に現場からの意見も行政に聞いても

らい、情報共有や共通認識し、自治会側では、組織をうまくリードして、協力することが必要だと思っております。

今の自治会は時代にあわせて形を変えていきながら、より地域のまちづくりに対応しなければならなくなるでしょう。なくなればそれで良いというものではなく、あまり関心のない人もいるかもしれませんが、逆にこういう時代背景だからこそ必要だということを訴えていけるように努力したいと思っております。

市長

これからますます市民の生

活様式や要求、要望が多様化していく中で、人間社会の常としては、多様化、高度化するにつれ、依存性が高まると思います。そういう意味では、相模原市も市民の中に行政依存、組織依存が残っていると思います。

しかし、「地域力」という視点で一番大事なことは、身近な生活問題に対処するためには、地域の「連携」が無いと対処できないということを理解していただくことだと考えています。その「連携」の中心は、やはり自治会になるのだろうと考えています。これから、市民ニーズが多様化

する中では、行政だけで対応することはできなくなってきました。今の相模原市では、自治会加入者が少ない中で、地域の安全が保たれ、防災対策もしっかり行われ、福祉対策、環境対策がきちっとできているのは、逆に自治会の組織がしっかりしているからではないでしょうか。

自治会活動のような大事な活動は、ある特定の人に背負わせるのではなくて、地域の多くの人の参加のもので守っていかねければなりません。これが地域力だと思いますし、「地域力」相模原力」につながると考えています。

